



学内広報

No.1309

2005.3.9
東京大学広報委員会



「卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会」開催される（2ページに関連記事）
（上：懇談会での総長挨拶、下左：趙麗華さん、下右：金大永さん）

CONTENTS

一般ニュース 2
「平成16年度第2回東京大学総長賞」の受賞者決定されるー授与式及び特別講演の開催についてー、「卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会」開催される、「東京大学外国人留学生スキー講習会」開催される

部局ニュース 4
退職教員の最終講義、第21回比較法政シンポジウム「国際的M&Aとわが国の会社法」が行われる、

公開セミナー「建築・メディア・博物館」の終了
掲示板 5
第103回（平成17年・春季）公開講座「楽（らく）」開催のお知らせ、中央食堂・第二購買部等の営業のお知らせ、千葉演習林・春の一般公開のお知らせ、総合図書館備付け図書の推薦について

事務連絡 7
人事異動（教員）

淡青評論 本学の国際化について思うこと 8

学生部

「平成16年度第2回東京大学総長賞」の受賞者決定されるー授与式及び特別講演の開催についてー

学生表彰選考委員会（委員長：大垣眞一郎工学系研究科教授）では、今年度第2回表彰の実施に向けて、本学各方面から推薦された合計39件の候補者を慎重に選考審査し、以下の個人9名及び1団体を選出しました。

授与式は下記の日時に実施され、東洋文化研究所長の田中明彦教授による特別講演の他、受賞者への表彰状及び記念品の授与、総長の挨拶、各受賞者（個人・団体）からのプレゼンテーションが行われます。

なお、授与式に先立ち、平成14年度第2回表彰を受賞した音楽部管弦楽団による演奏が行われる予定です。

授与式は、学生諸君を中心とした祝福の場としたいと思っておりますので、各学生団体（サークル）をはじめ多くの学生諸君にぜひ参加をお願いします。

受賞者

個人の部

- ・松本 翔（教養学部文科一類、陸上運動部）
21年ぶり箱根路を走る「東大ランナー」
ヴォチヨンギア
- ・Vo Trong Nghia（工学系研究科博士課程1年）
ベトナム古民家と都市における風環境の研究と設計活動
- ・佐藤 政達（法学部4年）
法学部成績優秀者
- ・村上 尚加（医学部5年）
生命科学研究における貢献
- ・大栗 真宗（理学系研究科博士課程3年）
重力レンズ現象を用いた宇宙の構造進化の解明
- ・森田 健司（経済学部4年）
経済学部成績優秀者
- ・千住 淳（総合文化研究科博士課程3年）
自閉症研究における卓越した業績とそれに対する国際的評価、及び医療保健現場への社会貢献
- ・菅谷 拓生（教養学部4年）
途上国の金融と公的機関の効率性の研究
- ・戸田 幸伸（数理科学研究科博士課程1年）
数理科学研究科成績優秀者

団体の部

- ・東京大学柏葉会合唱団
高水準学生合唱団としての演奏と社会貢献

特別講演

講演者：田中明彦教授（東洋文化研究所長）
題目：「東アジアの台頭 危機の国際政治とコミュニ

ティ形成」

概要：朝鮮半島の危機や台湾海峡の問題など不安定の要素を抱える東アジアは、他面、中国経済の成長にみられるように世界経済の中心ともなりつつある。この中で、「東アジア共同体」を形成しようという東アジア協力という動きもある。このような台頭する東アジア情勢をまえに、日本や日本人が直面する問題について考える。

授与式

日時：3月24日（木）
場所：大講堂
15：30～15：50 奏楽
16：00～16：50 特別講演
17：00～18：30 授与式

研究協力部

「卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会」開催される

2月17日（木）18時から、東天紅上野店において「東京大学卒業・修了予定の外国人留学生、留学生支援団体等と総長との懇談会」が開催されました。

この会は、本学の学部を卒業または大学院修士課程・博士課程を修了する予定の外国人留学生及び留学生支援団体関係者等と総長、他役員をはじめとする本学教職員とが一同に会して親睦を深めることを目的としており、今回は留学生約120名に加え、日頃から留学生をサポートしてくださっている支援団体、各国大使館及び自治体等関係者、及び本学教職員の総勢340名の参加がありました。



パナソニックスカラシップ社の嶋田社長の挨拶

会は佐々木総長の挨拶、古田副学長による乾杯の音頭で幕を開け、中盤には本学に多大な御支援をお寄せくださっているパナソニックスカラシップ社の嶋田勉社長より、奨学制度の趣旨等に因んだ御挨拶をいただきました。続いて本年3月に大学院教育学研究科修士課程修了予定の趙麗華(チョウ レイカ)さん(中国)、大学院情報理工学系研究科博士課程修了予定の金大永(キム デヨン)さん(韓国)の2名から、日本での経験、研究生活などにちなんだ流暢なスピーチがあり、会場は一層和やかな雰囲気になりました。

多くの国・地域から集まった留学生、大使館並びに留学生支援団体の方々、教職員と写真を撮り合う等、更に交流が進み、19時半過ぎに留学生センター長の飯塚克介教授(大学院農学生命科学研究科)から閉会の挨拶があり、会は盛会のうちに終了しました。

研究協力部

「東京大学外国人留学生スキー講習会」開催される

本学スキー部・スキー部OBの多大な協力をいただき、通算で6回目となる外国人留学生スキー講習会が2月18日(金)から21日(月)に開催されました。

18日(金)深夜、多数の応募者の中から抽選で選ばれた29名の留学生は本郷キャンパスを後にし、翌日5時30分に白嶺荘(東京大学運動会スキー部宿泊施設)に到着しました。

一行は到着するとスタッフ手作りの朝食で出迎えを受け、開校式を経て、梅池高原スキー場で講習会が開始されました。参加者の大半が初心者のため、講習はスキーの担ぎ方から始まりましたが、コーチ陣の懇切丁寧な指導により、午後には全員が緩斜面のコースを滑り降りることができるようになりました。



スキー講習会の様子

2日目は、スキー講師の熱意あふれる指導と練習の成果により全員に上達が見られ、さらに上級のコースに挑戦する者もいました。19日(土)、20日(日)の両日もある程度の天候に恵まれたことは参加者にとって本当に幸運でした。

19日(土)の夕方は、地元の小谷中学の生徒さん数名も加わり、留学生が主役のもちつき大会が開催されました。はじめて餅をつく留学生も多く、ぎこちなさも見られましたが、終始和やかな雰囲気の中で参加者全員が留学生のついたお餅を味わうことができました。翌20日(日)の夕方には手打ちうどんの実演も催され、スキー以外にも、関係者やスタッフの間で活気溢れる交流の実があげられました。

最終日に交流の一環で訪問した村立小谷中学校では、全校生徒から拍手で歓迎を受け、高野校長先生の挨拶に続き、留学生の母国並びに自己紹介が行われた後、生徒さんから地域の特色や学校の紹介などがあり、国際理解と交流を深めました。最後は1年生の生徒さん達とのお茶会が開催され、打ち解けた和やかなムードで幕を閉じました。小谷中学校の皆さんと記念撮影を行った後、見送りを受けた一行は名残を惜しみつつ同校を出発し、18時頃無事に本郷キャンパスへ到着しました。

この講習会を無事に実施することができたのは、本学スキー部OB、ボランティアの数年にわたる真に多大なる御協力と優れた企画力及び小谷中学校関係者、生徒さん達の御厚意と御協力、更に本会を支えていただいている会員各位の御支援の賜物であり、ここに心から御礼申し上げます。



もちつきに挑戦する留学生

退職教員の最終講義

このたび、本学を退職される方々の最終講義・講演の日程と題目をお知らせいたします。

大学院医学系研究科・医学部

大塚 柳太郎 教授 3月15日(火) 15:00~16:30
(国際保健学専攻・生物医科学講座・人類生態学分野)
医学部本館大講堂
「人類生態学と国際保健学」

久保木 富房 教授 3月18日(金) 15:00~16:30
(内科学専攻生体防御腫瘍内科学講座ストレス防御・心身医学分野)
医学部本館大講堂
「ストレスと心身症」

大学院法学政治学研究科・法学部

第21回比較法政シンポジウム「国際的M&Aとわが国の会社法」が行われる

大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センターは、2月22日(火)、フォーシーズンズホテル丸の内東京にて、第21回比較法政シンポジウム「国際的M&Aとわが国の会社法」を開催した。

シンポジウムは、実務家を中心に約40名の参加者を迎え、宮廻美明比較法政国際センター教授の司会のもと、神田秀樹教授(同センター運営委員長)の挨拶により開会した。「会社法の現代化と組織再編の概要」を宮廻教授、「M&A法制の国際比較とわが国の会社法」を神田教授が報告した。続いて、「外資による日本企業の買収と対応策」を三笥裕法科大学院助教授(弁護士)が、「敵対的買収/防衛策とM&A法制」を武井一浩法科大学院客員助教授(弁護士)がそれぞれ報告した。質疑応答の時間には、参加者から活発に寄せられた質問に対し、報告者が丁寧に意見を述べ、盛会のうちに閉会した。



神田教授の報告

総合研究博物館

公開セミナー「建築・メディア・博物館」の終了

2月7日(月)から2月10日(木)の日程で、現在開催中の「メディアとしての建築」展に関連した総合研究博物館公開セミナー「建築・メディア・博物館」が下記のとおり開催されました。建築、デザイン、メディアに興味がある学生をはじめ、連日100名前後の受講者が熱心に聴講しました。

全4回 各回2時間(17:30~19:30)

2月7日(月)

「特別展『メディアとしての建築』概説」

菊池 誠(本館客員教授)

2月8日(火)

「標本・写真・建築—メディア性をめぐる温度差」

藤尾 直史(本館助手)

2月9日(水)

「メディア・イベント・空間」

彦坂 裕(建築家、愛・地球博政府出展事業クリエイティブ統括ディレクター)

2月10日(木)

「メディアとしての建築—使用価値から交換価値へ」

八束はじめ(芝浦工業大学教授)



第1回公開セミナーの様子

総合研究博物館では現在下記の展示を開催中です。

特別展示 「メディアとしての建築」展

期 日 2月5日(土)~5月8日(日)

場 所 総合研究博物館新館展示ホール

開館時間 10時~17時(入館は16時30分まで)

お問合せ <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

ハローダイヤル 03-5777-8600

総務部

第103回（平成17年・春季）公開講座「楽（らく）」開催のお知らせ

お知らせ

第103回（平成17年・春季）公開講座を「楽（らく）」というテーマで、4月2日（土）から5月14日（土）までの間、5回にわたり開催します。多数のご来場をお待ちしています。

開講にあたって

今まで、学問や研究には、厳しく苦しいイメージがつきまわってきたように思います。当然、その中心である大学も同じです。「勉強」というのは、「勉めて強いる」わけです。けれども、もともと学問とは楽しいものはずです。今まで知らなかったことが分かるようになるのですから、目の前がパッと開けて、幸せになるはずではありませんか？なぜ、いつから、学問は「楽」から遠いものになってしまったのでしょうか？

もちろん、ふざけたり、いい加減であったりして良いはずはありません。真面目に、とことんひとつのことを掘り下げる。あるいはそれは、辛く厳しい作業かもしれません。でも、同時に、フットワーク軽くしなやかに越境していくこともできるはず。

もし、今の日本の社会の中に、勉強なんかつまらない、学問なんかくだらない、といった風潮があるとしたら、その責任の一端は、学問から「楽」を奪ってしまった大学にもあるのかもしれない。

そんな若干の反省と、一方で、おちゃらけを「楽」と勘違いしている世の軽率さへのいささかの怒りも込めながら、今回の公開講座を企画しました。企画運営委員会は、毎回、和やかに笑い声に満ちた雰囲気の中でおこなわれました。こういった「楽」の精神を発揮することで、社会も個人の人生も、政治も経済も学問も、もう少し風通しがよくなるはずだと信じています。

東京大学が、総力を結集して、「楽」の学問に挑戦いたします。その成果を、どうぞごゆっくりとお楽しみください。

第103回東京大学公開講座企画委員長

花田 達朗（情報学環長）

○聴講の御案内

会 場 東京大学大講堂（安田講堂）
定 員 800名
聴 講 料 全講義（5日間）4,000円
選択（1日） 1,000円

※高校生、本学関係者は半額

申込受付 3月10日（木）から

○申し込み方法

所定の申込書に必要事項をご記入の上、お申込みください。パンフレット・申込書は、120円切手を同封の上、下記までご請求ください。HPからもダウンロードできます。

（問い合わせ・パンフレット請求先）

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学総務部内

財団法人 東京大学総合研究会

電話 03-3815-8345

HP http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html

プ ロ グ ラ ム

【第1日】4月2日（土）

- ・開講の挨拶 小宮山 宏
- ・音楽の「楽」：西洋と日本、そして日本の内なる西洋
ヘルマン・ゴチェフスキ（総合文化研究科助教授）
渡辺 裕（人文社会系研究科教授）

【第2日】4月9日（土）

- ・日本型年功制は楽だったのか
高橋 伸夫（経済学研究科教授）
- ・サル社会、ヒトの組織—人間やぱりサルだった—
佐倉 統（情報学環助教授）

【第3日】4月16日（土）

- ・がんと「楽」
中川 恵一（医学系研究科助教授）
- ・リラックスと自然体—その矛盾と逆説—
西平 直（教育学研究科助教授）

【第4日】4月23日（土）

- ・それでもテレビゲームはオモシロい
馬場 章（情報学環助教授）
- ・楽々3次元コンピュータグラフィクス
五十嵐 健夫（情報理工学系研究科講師）

【第5日】5月14日（土）

- ・そこそこ都市のすこゆる生活
村松 伸（生産技術研究所助教授）
- ・都市の眼の楽しみ—ミステリー・考現学・タウン誌—
佐藤 健二（人文社会系研究科助教授）
- ・閉講の挨拶 花田 達朗

学生部

中央食堂・第二購買部等の営業のお知らせ

お知らせ

学生、教職員からご要望の多かった食堂、購買部等の日曜、祝日等の営業を3月より実施します。

1. 日曜、祝日の営業時間

- (1) 第二購買部 10時～17時（年末年始は閉店）
- (2) 中央食堂 11時～14時（8月の日曜日、年末年始は閉店）

2. 営業時間の変更

- 本郷書籍部（土曜日） 10時～17時
（これまでは11時～15時）

大学院農学生命科学研究科・農学部

千葉演習林・春の一般公開のお知らせ

お知らせ

通常、千葉演習林敷地内の立入りは許可制になっておりますが、新緑のシーズンを迎えるにあたり、猪ノ川溪谷の一部を以下の要領で一般に公開いたします。猪ノ川溪谷とすがすがしい新緑をお楽しみください。また、森林や林業に関する研究の紹介、演習林に関する解説もいたします。

平成17年度春の一般公開 ～新緑の猪ノ川溪谷へ～

公開日：4月16日（土）、17日（日）の2日間

※ 悪天候等により中止の場合あり。

時間：9時から16時まで

（袖ノ木歩道への入林は14時30分まで）

公開区間：君津市折木沢地先、演習林ゲートから黒滝方面、猪ノ川林道に沿って約2km、および袖ノ木歩道約1km地蔵峠まで

交通手段：JR久留里線上総亀山駅から徒歩約1時間
公開期間中は駅に案内が掲示してあります。
※ 駐車場はありません。

（お願い）

演習林の中では貴重な生物の生態を調べるための試験地がいくつも設けられています。自然環境に影響を与えないため、以下の注意事項を守ってくださるようお願いいたします。

- ・ 公開区域以外には立ち入らないで下さい。
- ・ 演習林内では禁煙です。
- ・ 食事は決められた場所をお願いします。
- ・ ごみは必ずお持ち帰り下さい。
- ・ 自転車・バイクの乗り入れ・持ち込みはできません。
- ・ 動植物は採集禁止です。
- ・ 犬はリードを短く持ち、他の方に迷惑がかからないようお願いいたします。

ごみの持ち帰り、無断駐車をしないなど、三石観音寺や近隣の方に迷惑をかけることのないよう、重ねてお願い致します。

（その他）

千葉演習林では皆様が安心して敷地内を散策できるように、日頃より通路の万全の手入れをしておりますが、落石や転倒により思わぬケガをする可能性もありますので充分お気を付け下さるようお願いいたします。袖ノ木歩道は細くて急な坂道ですので、歩かれる方は特に靴・服装・装備にご留意下さい。

なお、物品の盗難やケガにつきましては、当方にての責任は負いかねますのでご了承願います。

（お問い合わせ）

千葉演習林天津事務所

TEL：04-7094-0621 FAX：04-7094-2321

（ホームページ）

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>

附属図書館

総合図書館備付け図書の推薦について

お知らせ

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成17年度夏学期授業に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

1. 取りまとめ窓口 各部局図書館（室）
2. 推薦期限 3月25日（金）
なお、その他の図書の推薦は常時受け付けます。
3. 推薦方法 総合図書館備付け図書推薦要領による。

人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
17.2.28	崔 恒	辞 職	大学院新領域創成科学研究科助教授
（採 用）			
17.3.1	横山順一	大学院理学系研究科附属ビッグバン 宇宙国際研究センター教授	大阪大学大学院理学研究科助教授
//	津本浩平	大学院新領域創成科学研究科助教授	東北大学大学院工学研究科助教授
//	関野祐子	医科学研究所助教授	群馬大学大学院医学系研究科助教授
（昇 任）			
17.2.16	東條有伸	医科学研究所附属先端医療研究セン ター教授	医科学研究所附属先端医療研究センター助教授
17.3.1	伊藤俊樹	医科学研究所助教授	医科学研究所助手
（兼 務）			
17.2.16	木畑洋一	大学院総合文化研究科長 教養学部長	大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域 研究センター教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

原 稿 募 集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えめにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いします。

送付先 東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393 内線：82032、22031
FAX：03-3816-3913
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合や、12月を除きます。

平成16年度の学内広報の発行スケジュール
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

本学の国際化について思うこと

東京大学には世界の85の国や地域から約2100名もの留学生が来ている。この数は学生総数の約7%であり、大学院生に限ってみると約14%にも達している。留学生が決して極く少数の特殊な学生でないことがわかるし、その意味で東京大学の国際化がある程度進んでいるとみることもできよう。しかし、現実には彼らの多くが奨学金や宿舎を求めて、また生活資金の不足を補うためのアルバイトに多くの時間と労力を費やしており、折角の留学の成果が懸念されるようなケースも少なくないと思われる。対応が急がれる問題である。重要なのは、このような留学生も他の多くの日本人学生と変わることのない本学の学生であり、言葉や文化の異なる異国の地で勉学しようとする彼等の環境が大きく改善され、勉学に専心できるようになることが、本学の国際化にとって不可欠であると考えます。

それにしても、日頃学内で対応している留学生達は、留学の機会を手にする事の出来た、ある意味で非常に幸せな人達であることを、今回、バンコックでの留学フェアに参加して改めて強く感じた次第である。留学の機会を求めてひっきりなしに訪ねてくる彼らの真剣なまなざしに向かい合い、熱望のようなものを聞くと、



将来彼らの希望が叶えられることを祈らざるを得なかった。しかし、現実には彼らのうち、ほんの僅かの人が留学生として来日できるだけであることは言うまでもない。留学が実現するまでに彼らがクリアすべき障壁を考えると、誠に多様かつ大きなものがある。入学試験をクリアすることは言うまでもないが、受験のための来日に要する経費、入学料、入学後の授業料、生活費の確保など、特別の手立てをもつ極く一部の人を除けば、想像することさえも難しい問題であると思われる。このような事情をみると、本年度から本学独自で始められた優秀な留学生を招くための奨学金は画期的であり、是非とも充実したものにしていけることが必要であろう。

留学を希望する彼らの志望は勿論まちまちである。しかし、環境工学、土木工学、食品工学、国際ビジネスなどの分野に志望が集中しており、逆に基礎科学を志望する学生が極く限られていたことは、その国の置かれている状況を反映しているのであろう。

しかし、若干気になることは、彼らの志望が先輩、先生などを通して得られたかなり限られた情報を基に決められていると思われることである。我々としては、ホーム・ページなどを通じて本学の情報の海外への発信に一層努力する必要がある。

飯塚堯介（留学生センター）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1309 2005年3月9日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO